vol.34

2017年11月

エル・コンパス

Link つながる
Live 生きる
Learn 学ぶ
Labour 労働
Liberty 自由

宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。
センターの愛称“エル”は上記の５つのＬの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター

巻頭エッセイ「キレる高齢者の増加」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
特集　ネパールが教えてくれた　～見えない差別に向き合って～・・・・・・・・・ 2
情報図書・・ 5
講座案内・・ 6
センターフェスティバル 2017 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

キレる高齢者の増加

総人口に対して６５歳以上の高齢者人口が占める割合を高齢化率といい、世界保健機構（WHO）や国連の定義によると、高齢化率が２１％を超えた社会を「超高齢社会」という。

日本は、２０１３年（平成２５年）時点で、すでに高齢化率が２５％を超えており、先進国の中でも群を抜いての「超高齢社会」である。

年々深刻さを増す日本の超高齢社会。それと呼応するように「キレる高齢者」の増加も深刻になっている。

２０１５年版犯罪白書によると、一般刑法犯の検挙人数に占める６５歳以上の高齢者の割合は過去最高の18.8%に達し、犯罪件数は２０年前の約４倍と急増している。

なぜ、キレる高齢者が増えているのか。一つには「脳の老化」がキレる原因といわれている。

加齢に伴って、感情のコントロールを司る前頭葉が縮小することにより怒りの感情を抑制することが難しくなるが、情動を司る大脳辺縁系の機能も衰え、喜怒哀楽への振幅も縮小するため、普通は感情のバランスが取れるところが、一部感情の激しい気質を持った人が、怒りの感情を爆発させやすい傾向となる。

では、キレる高齢者にならないためにはどうすればいいのか。答えは「普段から脳を鍛える」ことしかない。脳を鍛えるとは、脳を万遍なく働かせることをいう。何もしないより何かする。思考を停止しない、しっかりと感じる、感動する、からだを動かす、新しいことに挑戦する等など、どれも脳の活性化に役立つ。

日々の小さなことの積み重ねがキレない高齢者になるための秘訣だと自戒の念を込めて提案したい。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長
田上時子

特集

ネパールが教えてくれた ～見えない差別に向き合って～

山本さんが運営に関わっている『反差別草の根交流の会「サマンタ」』（以後「サマンタ」）は、日本の部落解放運動に関わる人々とネパールの女性たちとの交流を通じて、差別のない社会をめざして学び活動しているグループです。差別と闘う人々や仲間とのつながりを大切にしながら、ゆるやかにネパールと関わり続けています。

山本さんが「サマンタ」の活動をすることとなった経緯や、ネパールへの思いについてお話をお聞きしました。

●ターニングポイントは空港での出会い！

学生時代から欧米にはよく旅行をしていたのですが、卒業後は、就職した商社での勤務部署がアジア・中東地域に関わるところだったこと、会社の休みを利用して行きやすいということで、よくアジアの国々を旅行していました。特に問題意識を持っていたわけではありませんでしたが、内戦後間もないカンボジアを訪れた時には、途上国と日本との格差、人々が残存する地雷により死と隣り合わせの生活を強いられていることにショックを受けました。

そんな時、空港で一人の日本人青年に出会ったのです。彼は※NGO（エヌ・ジー・オー）で働いているとのことでしたが、当時私は NGO ということばを聞くのも初めて、何をするところなのかも知りませんでした。ただ、内戦の真っただ中でもカンボジアで活動してきたという彼の話を聞き「彼を駆り立てる NGO というのは何なんだろう」という疑問がわきあがったのです。

そこで帰国後、NGO について勉強しようと、仕事帰りに YWCA に通い、日本の政府開発援助や民間の活動などについて学びました。

NGO：英語の Non-governmental Organization の頭文字を取った略称で、貧困、飢餓、環境など、世界的な問題に対して、政府や国際機関とは違う”民間”の立場から、国境や民族、宗教の壁を越え、利益を目的とせずにこれらの問題に取り組む団体のことです。

●生き方に疑問を感じて

私は商社に勤めていたのですが、それは「儲けてなんぼ」が当たり前の世界。経理である私の元を何億というお金が流れていく中、この仕事は途上国の人たちの生活の犠牲の上で成り立っているのではないかと、自分の生き方に大きな疑問を感じはじめたのです。

待遇のよい会社でしたが、NGO への転職を考え始めました。就職して 4 年、26 歳の時のことです。

求職活動をしてみると、当時日本のＮＧＯは規模の小さいところがほとんどで、そこで求められるのは即戦力。自分では何の役にも立たないことを思い知らされました。そこで、できることからやってみようと、大阪の NGO の事務局や地域でできるボランティアを始めました。ところが、やはり現地の人たちのことを知るために現場で経験を積んでみたいと思い、会社を辞め、海外に行くことを決意しました。

●退職、ネパールへ

さて、どこの国を選ぶかとなった時、まだ治安の安定しないカンボジアは諦めました。今思えばとても単純な動機ですが、旅行で訪れたことのあるネパールは食べ物がおいしく、日本の NGO が多く入り込んでいて、ここならいろいろと勉強できるのではないかと思いネパールに行くことを決めました。

最初は※ワークキャンプで行き、滞在中に NGO で活動する日本人や施設をいくつか紹介してもらいました。

そんな中、現地で出会った※佐野由美さんから受けた影響は大きく、ネパールを理解し活動していくにはまず現地の人々と生活を共にすること、その際には「ことば」が絶対に必要であることを教わりました。ワークキャンプを終えて一旦帰国、次は語学留学という目的でネパールに行きました。

ワークキャンプ：自ら労働を体験しながら現地の人々と交流する国際交流やボランティアの形態で、専門性は求められません。比較的短期で参加しやすいです。

佐野由美さん：1975 年神戸市長田区生まれ。阪神淡路大震災を体験したことから「神戸・長田スケッチ　路地裏に綴るこえ」を出版。大学卒業後 NGO の長期先生派遣事業に参加、1 年間ネパール・パタンにて小学校の美術指導を行いました。

貧困の人々と深く関わりながら美術作家としても活動しましたが、帰国直前の 1999 年 4 月、交通事故に巻き込まれ逝去。

由美さんがネパール滞在中に書き綴った文と絵をもとに「ネパール滞在日記 パタンの空より」が出版されました。

山本 愛 さん

1973 年兵庫県伊丹市生まれ。公益財団法人とよなか国際交流協会事務局次長
伊丹市で『反差別草の根交流の会「サマンタ」』の運営に関わる。

●私がネパールでできること、やるべきこと

ことばを学びながら児童労働撲滅に取り組む現地 NGO 等でボランティア活動をしたのですが、もっとネパールの社会を深く勉強したくなり、ネパールの大学院で社会学を学ぶことにしました。あわせて、女性支援に取り組む団体をいろいろ回り、勉強させてもらいました。ネパール女性は働き者ですが、家父長制の中でさまざまな不利益を受けています。そんな中、出会ったのがカーストの最下層に位置づけられている※ダリット（被差別カースト）の女性の当事者団体「フェミニスト・ダリット協会（FEDO)」でした。ダリットの女性は性差別の対象として男性から抑圧を受けている上に、ダリットとしてもいまだに根強い差別を受け続け、多くの人が貧困状態におかれています。「この差別問題は、ネパールの社会開発を阻害している大きな要因ではないか」と自分が取り組むべき課題が見えてきました。

ネパールには多くの個人・団体が援助していますが、必ずしも公正に実施されているわけではなく、格差を拡大させている側面も否めません。一般的に外国からの援助にアクセスできるのは、外国人と英語で話せ、首都カトマンズの周辺に住んでいて、高学歴の男性…といった層です。これは極端な言い方かもしれませんが、実際に最下層の人々に援助の手が届きにくいことは、2015 年の大震災でも明らかになっていることです。折しも、ダリット支援やボランティア育成を行っている大阪の NGO から誘われたことで大学院は途中で辞め日本に帰国、そこで働くことになりました。

ダリット：ネパールのカースト制度の最底辺に位置付けられた人々の総称。「不浄」な存在として扱われ、飲食店・寺院・井戸・公共の場への立ち入り禁止や、強制労働、賃金差別、結婚差別など、さまざまな差別を受け、社会の周縁におかれています。

●「N女」という生き方

女性に目が向いたのは、それまでの私自身の心の葛藤による部分が大きいです。私が就職した頃は、男女雇用機会均等法が制定された後とはいえ、会社はコース別採用で、まだ男女間の格差がありました。採用の時に「結婚したら辞めてもらうよ」と言われ、もっと自分の可能性を活かせる、やりがいのあることがないだろうかと模索していたことも、NGO に興味をもった理由の一つでした。ネパールで活動していく中で女性に目が向いたのは自然の流れだったのかもしれません。こういったことは、「※N女」といわれる人たちによくあることかもしれませんね。

N女：NPO（非営利組織）や NGO（非政府組織）に就職する女性たち、という意味で用いられることのある呼び名。「N 女の研究」（中村安希／フィルムアート社／2016 年）は、N 女 10 人にインタビューすることで、リアルな N 女の姿に迫ります。

●ネパールが気づかせてくれた日本の部落問題

就職した NGO からの派遣により、ネパールでダリットの調査をしていくと、ダリットの女性たちから「日本の部落問題はなぜあるのか、今でもあるのか、どんな差別があるのか…」など多くの質問を受けました。ところが恥ずかしながら私はきちんと答えることができず、自分は日本の部落問題について知らないことが多すぎる、ということに気がついたのです。ダリット差別と日本の部落差別は「生まれ」に基づく差別という点で共通する部分が多くあります。ネパールのダリットや開発に関わっているにも拘わらず、私自身が日本の部落問題にどう向き合うかという自覚がない、というのは欺瞞（ぎまん）ではないかと思い始めました。1 年間のネパールでの調査終了後、日本の部落解放運動に関わる活動家の人たちとネパールへ行き、ダリット団体と交流する企画を立てたり、逆にネパールのダリット女性が解放運動について学び、交流するために彼女たちを日本に招聘するなど、2 国間の交流をコーディネートしました。交流の仲立ちをする中で、私自身もたくさんのことを学びました。そしてこれまで自分自身が差別を「維持」する社会の多数派の側にいることに無自覚であったことをふまえて、これからどう足元の課題に向き合っていくべきか、について考えました。

●「サマンタ」の活動へ

ネパールのダリットの女性たちと日本各地の被差別部落を回る中で、偶然私の地元である伊丹の被差別部落を訪れました。その運動の歴史や取り組みを知り、当事者の同世代の若者たちと出会うことで、自分が地

ネパールが教えてくれた ～見えない差別に向き合って～

域の課題を何も知らずにいた、知ろうとしなかったことを改めて思い知ることになりました。同時に、自分の足元でできることを始めたいという気持ちも大きくなりました。その後、伊丹の部落解放運動に関わる人たちとのネパール交流の旅を企画したあと、私はNGOを辞め転職したのですが、一緒にネパールに行ったメンバーたちから、伊丹とネパールのダリットの女性たちとの交流を継続していきたいという声があがり、部落解放・ダリット解放を願う教員や地域の人たちと共に「サマンタ」を設立することになりました。「サマンタ」は、差別を受ける人たちとの交流の中からお互い学び合い、日本の部落解放や人権運動、教育の経験をネパールに伝えることで、ダリットと被差別部落、双方の解放につないでいきたいと思って活動しています。

●出会いをつないで

思えば、私には数々の出会いがあり、それをつないで現在があります。動き続けてきたことで出会いがあり、その中でも当事者の人々と出会うことでたくさんの影響を受けてきました。私の場合は、ネパールのダリットとの出会いがあったからこそ、日本の部落問題と出会い直すことができました。

机上の知識だけではなく、実際現場に足を運んだり、当事者に出会って直接話を聴くことで、差別問題を自分自身に引き付けて考えることができるようになったと思います。これからも「サマンタ」の活動などを通して、少しでも多くの人に出会いの機会を提供し、差別問題だけではなく、共に生きる社会をどう創るかについて考え、行動していきたいと思っています。

今、あなたに知ってほしい世界の現実 ～女性セミナーのご案内～

アジアや中東の女性たちとの交流を続け、草の根で活動をしている女性たち。1月からの女性セミナーでは、その活動についてお聞きすることで、世界の現実を知り、私たちにできることは何かを考えます。

女性セミナー ●対象；テーマに関心のある女性 30人 ●保育：（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

2018年1月20日（土曜日） 13:30～15:30 **12月1日（金）から受付**

アジアの女性と手をつなぐ ～女性たちのエンパワーメントをめざして～

世界の貧困を考え、女性の仕事を作る方法としてフェアトレードがあります。アジアの移住女性の仕事づくりとエンパワメントのための活動を行っている、アジア女性自立プロジェクト(AWEP)の方から、その活動についてお聞きします。

●講師：奈良雅美さん（NPO法人 アジア女性自立プロジェクト 代表理事）

2018年2月27日（火曜日） 10:00～12:00 **1月4日（木）から受付**

差別のない社会をめざして ～ネパールの女性たちとの交流から～

ネパールでは、家父長制やカースト制度といった身分制度がいまだに人々の意識に深く根付いています。その最底辺に位置付けれたダリットの女性たち。差別の現状や彼女たちとの交流から見えてきた日本の差別の問題についてお話をお聞きします。

●講師：山本愛さん（公益財団法人とよなか国際交流協会事務局次長・反差別草の根交流の会「サマンタ」共同代表）

2018年3月16日（金曜日） 10:00～12:00 〈予定〉 **2月1日（木）から受付**

アフガニスタン支援―平和を求め続けて～23年間の活動とイランへの留学、そしてこれから～

内戦を紹介した写真展を見たことをきっかけに「宝塚・アフガニスタン友好協会」を立ち上げ、たった一人で難民キャンプへミルクを届けることから始めた活動は23年間にも及びました。昨年3月にこの活動に区切りをつけ、今年は8月末から3か月間イランへ語学留学へ。その行動力、尽きない探求心はどこから生まれるのか、お話をお聞きします。

●講師：西垣敬子さん（元 宝塚・アフガニスタン友好協会 代表）

情報図書　図書の紹介

図書の貸出には
「図書利用者カード」の発行が必要です
ひとり３冊　２週間まで借りられます

世界には様々な差別や制約を受けている人々や女性がいます。世界の現実を知ることで、私たちにできることは何かを考えてみましょう。

●わたしは 13 歳、学校に行けずに花嫁になる。―未来をうばわれる２億人の女の子たち

公益財団法人プラン・ジャパン 他　合同出版（2014/10）

世界の国々には、「女の子だから」という理由で「学校に通わせてもらえない」「13 歳で自分の何倍もの年齢の人と結婚させられる」「自由な外出を許されない」など、さまざまな差別や制約を受けている女の子たちがいます。この本には、そういった女の子たちの困難な状況、それと同時にそれらを乗り越えている女の子たちの強さが描かれています。国際社会でも女の子への支援が、いろいろな形で進められています。2017 年のジェンダー・ギャップ指数が 144 か国中 114 位の日本の状況を考えると、根本は同じことかもしれません。だからこそ他人ごとではなく、小さなことからでも世界の女の子たちに「かかわって」いくことを考えたいです。

●ファストファッションはなぜ安い？

伊藤和子　コモンズ（2016/4）

「ファストファッション」とは、流行を取り入れつつ低価格に抑えた衣料品を大量生産し、短いサイクルで販売するブランドやその業態の総称です。低価格でありながらスタイリッシュなファッションは、消費者である私たちにとってはとても便利。でも安いのには理由があるのです。生産コスト削減するために人件費の安いアジア諸国に生産拠点を求め、現地工場では労働者を劣悪な労働環境で働かせ、納期に間に合うように長時間労働の残業を課します。その縫製労働を支えているのは、莫大な数の若い女性たちです。この本では、そういった下請け工場での調査の内容、その結果から判明した事実が書かれています。消費者として私たちはどう行動していけばいいのか、考えさせられます。

●はじめてのエシカル　人、自然、未来にやさしい暮らしかた

末吉里花　山川出版社（2016/11）

「倫理的」「道徳上」という意味の「エシカル」ですが、近年は「環境保全や社会貢献」という意味合いが強くなっています。この本では人や自然、未来にやさしい暮らしをするために私たちができることの一つに、買い物をする時、「この商品はどんな環境で作られたんだろう？」と考えてみることを提案しています。著者は「ファストファッション」が出来上がる仕組みにショックを受けたこと、そして何から始めていいのかわからずに立ち止まったとも言い、無理せずできるエシカルな暮らしの始め方や買い物の仕方、フェアトレードについてもわかりやすく語っています。実際に見たり使ってみたりして、おすすめできるアイテムの一覧も掲載されています。

●裸でも生きる（2007/9）●裸でも生きる２（2009/9）

山口絵理子　講談社

著者は「マザーハウス」代表取締役兼チーフデザイナー。24 歳の時、「途上国から世界に通用するブランドをつくる」という理念のもと、バングラデシュで現地の素材を使ったバッグを生産する会社「マザーハウス」を創業。「裸でも生きる」は彼女の幼少期から起業するまでの自伝、「裸でも生きる２」はマザーハウス日本初の直営店オープンから、新たな地、ネパールでの挑戦の記録です。マザーハウスという会社は、途上国の素材を活かし現地の職人さんと一緒に商品を生み出すことで、ビジネスの力で現地にしっかりと雇用をつくっています。援助などに頼らない形は本当の意味で途上国の人々のためになっているのです。著者の幼少期からの壮絶な体験、バングラデシュやネパールでの国民性の違いや現地での裏切りを乗り越え、前に進むことをあきらめない姿に圧倒されつつも、その姿に勇気をもらえます。

講座案内

2018年
11月～3月

講座はすべて
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

男性セミナー

11月18日（土曜日）　10:00～11:30

パパと一緒に遊ぼう！ ☆新聞紙を使ったワイルド遊び☆

雨の日でも出来る身近な新聞紙を使った遊びや、子どもの心をつかむ絵本の読み聞かせなど、楽しい時間を過ごしましょう。

●講師：松原正裕さん（NPO 法人 ファザーリング・ジャパン関西）
●対象：パパと就学前までの子ども　15 組

12月17日（土曜日）　10:00～11:30　**受付中**

パジック！　パパと一緒に☆マジックに挑戦！

親子でマジック道具を作り、練習して披露するパジック（パパマジック）を体験してみませんか。

●講師：和田憲明さん（NPO 法人 ファザーリング・ジャパン関西）
●対象：パパと子ども（小学生）　15 組
●保育：10 人（1 歳～就学前まで）　要予約・先着順

市民力開発講座

11月24日～12月15日　全５回

私たちの‘エンディング’を考える

認知症になっても、シングルであっても住み慣れた場所で、いつまでも自分らしく！終末期を安心して暮らし続けるために、私たちができることは何かを考えます。

11月24日(金) 10:00～12:00	オリエンテーション　私たちのエンディングを考えるとは？ ～3 年目を迎えて～	上村くにこさん 田上時子さん
11月30日(木) 14:00～16:00	僧医ががんになって思ったこと ～仏教的エンディング～	田中善紹さん
12月８日（金） 10:00～12:00	宝塚市内の活動事例 ～‘エンディング’講座からのスタート～	市内で活動されている方々
12月10日(日) 13:30～16:30	上野さん、「老後が不安です！」　**※男女共同参画プラン推進フォーラム** 最期まで、自分らしく生き抜くには、どうしたらいいですか？	上野千鶴子さん
12月15日(金) 10:00～12:00	‘賢い患者になる’こと とは？ 一人ひとりが「いのちの主人公」であり「からだの責任者」であること	山口育子さん

●対象：テーマに関心のある方　40 人　●保育：10 人（1 歳～就学前まで）　要予約・先着順

こころとからだのリフレッシュセミナー　2月1日（木）～8日（木）受付　抽選

2018年２月28日・３月７日・14日（水曜日）　全３回　13:30～15:00

癒しのエクササイズ　椅子ヨガ

いつでもどこでも誰でも、座って手軽にできる「椅子ヨガ」。身体を動かすのが苦手な人、長時間立っているのが難しい人、どんな年代の方も、無理なく実践できます。

●講師：冨田あかりさん（ヨガインストラクター）
●対象：テーマに関心のある方　20 人（定員を超えた場合抽選）　●保育：10 人（1 歳～就学前まで）　要予約
●持ち物：汗拭きタオル、飲み物　※動きやすい服装でご参加ください

講座案内

11月～2018年3月

講座はすべて
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

映画にまつわるいろいろな講座を開催します！

エル・シネマ　受付中

12月1日（金曜日）　9:40～11:30

木洩れ日の家で　2007年／ポーランド／104分／日本語字幕

ワルシャワ郊外の緑に囲まれた古い屋敷に、愛犬と静かに暮らす91歳の女性アニェラ。誇り高く生きる彼女が下す、人生最後の決断とは…。

●定員：50人　●保育：10人（1歳～就学前まで）　要予約・先着順

情報リテラシー　12月1日（金）から受付

2018年1月27日（土曜日）　13:30～15:30

やっぱり　映画は面白い！　～女性の視点で映画を読み解く～

長年関西で映画配給・宣伝に携わってこられた映画パブリシストの岸野令子さんに、世界の多様な映画文化や、岸野さん流映画との出会い方などを解説していただきます。**（※本講座では映画の上映はありません）**

●講師：岸野令子さん（映画パブリシスト／有限会社　キノ・キネマ代表）
●定員：30人　●保育：10人（1歳～就学前まで）　要予約・先着順

ほっとサロン　1月4日（木）から受付

2018年1月30日（火曜日）　10:00～12:00

わたしに戻る 映画の時間　バグダッド・カフェ（1987年／ドイツ／104分）

知る人ぞ知る、1987年制作の名作映画。砂漠に佇む、さびれたカフェ「バグダッド・カフェ」。そこに大きなトランクをかかえた一人のドイツ人女性がたどりつきます。不機嫌な女店主やその家族、モーテルに泊まる個性的な住人たち…。特別な事は何も起こらないけれど、観終わった後はあたたかい気持ちになれる映画です。

●対象：子育て中の女性　30人　●保育：15人（1歳～就学前まで）　要予約・先着順

国際女性デーを記念して

エル・シネマ 上映会＆トーク

ドキュメンタリー映画　2月1日（木）から受付

でんげい ～わたしたちの青春～　2015年／韓国／97分　字幕：日本語・韓国語

2018年3月3日（土）　① 10:30～　② 14:00～　トーク 13:00～

「でんげい」とは、伝統芸能、あるいは伝統芸術部の略です。主人公は、大阪市住吉区にある白頭学院建国高等学校の伝統芸術部の女子高校生たち。同校は在日韓国・朝鮮人の子弟に言葉や文化、歴史を学ばせるために創立された民族学校で、映画は2014年、“文化のインターハイ”ともいわれる全国高等学校総合文化祭に、伝統芸術部が大阪代表として挑む姿を描いています。とにかく厳しい女性教師、それについていく生徒たちを追った感動のドキュメンタリー映画です。
1回目の上映会の後に、映画配給元のキノ・キネマ代表の岸野令子さんによる解説があります。

笑顔でつながる

フェスティバル 2017

12月 1日(金) 2日(土)

12月1日（金）

主催：フェスティバル実行委員会／宝塚市立男女共同参画センター・エル

発表会 **13:30～15:00**
宝塚の昔ばなし
＜民話の語り部　花あかり＞

発表会 **14:30～16:30**
朗読“なずな”の文学を聴く
＜朗読 なずな＞

ワークショップ
10歳若返るかも！？「顔のコリほぐし」 ＜ｾﾝﾀｰﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会＞ **13:30～15:30**

12月2日（土）

朗読発表会 **10:00～12:15**
ひびきあう鼓動、伝え合う喜び
＜ななつきの朗読会＞

講義・ワークショップ **13:00～16:00**
自分を変えると人生が変わる！？
＜コーちゃんの会＞

朗読ライヴ **10:30～12:00**
朗読　伽羅（きゃら）
＜グループ 伽羅＞

講義・ワークショップ **13:30～15:30**
スマホで備える 災害アラカルト
＜宝塚情報ボランティアネットワーク＞

手作りコーナー **11:00～14:00**
折り紙（サンタクロース）
＜ｾﾝﾀｰﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会＞

講演会・パネルディスカッション **14:00～16:00**
おひとり様の私がたおれたら？
＜宝塚男女共同参画センター連絡協議会＞

マジック＆バルーンアート **12:00～13:00**
マジックとバルーンアートで笑顔いっぱい
＜宝塚マジック同友会＆バルーンアート愛好会（ふ～せんや）＞

コンサート **16:00～16:30**
「あんさんぶる かるむ」によるウィンタープレゼント
＜ｾﾝﾀｰﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会＞

フリーマーケット **10:00～13:00**

喫茶　ひととき ＜宝塚市婦人会＞ **10:30～14:30**

展　示

●パープルリボン・フレンドシップキルトの展示
パープルリボンカフェで作ったリボンの配布・フレンドシップキルトの展示

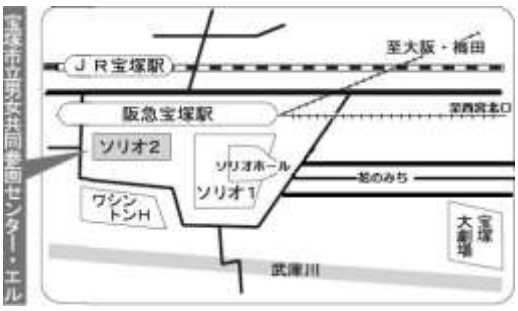
● 川柳 ＜宝塚川柳会＞

●アジア女性自立プロジェクト（AWEP）パネル展示
フェアトレード製品を作るアジアの女性たちを紹介。２日はフェアトレード製品の販売があります。

●Nゲージ鉄道コーナー　センタースタッフがＮゲージの鉄道を走らせます。

宝塚市立男女共同参画センター・エル
宝塚市指定管理者
ＮＰＯ法人　女性と子どものエンパワメント関西
開館時間：月曜日～土曜日（9:00～21:00）
日曜日・祝日　（9:00～17:00）
休 館 日：毎月第２日曜日・年末年始

〒665-0845　宝塚市栄町２－１－２「ソリオ２」４階
TEL：0797-86-4006　FAX：0797-83-2424



メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp
ホームページ：http://www.takarazuka-ell.jp/

2017 年 11 月発行